

2018 年度 第 1 回幹事会 議事録

日時：2018 年 4 月 13 日（金）13：00～15：00

会場：大阪科学技術センター 7 階 700 号室

出席者：58 名

幹事会開会に先立ち、辻支部長から近畿分析技術懇話会の入会案内があった。一方、2018 年度支部役員を名簿に基づいて確認した。本部「ぶんせき」編集委員にある田中氏は、支部推薦の「ぶんせき」編集委員の間違いであること、また、参与の谷口氏の所属は、テクノエックスからクロスレイテクノロジーであることが、辻支部長から報告された。後ほど訂正される予定である。

○支部役員について

辻支部長からの挨拶の後、2018 年度の支部役員（資料 No.1）が紹介され、出席されていた 5 名の新役員から自己紹介があった。

○前回幹事会議事録承認

前回議事録（資料 No.2）を確認し、修正などが必要であれば申し出るよう、辻支部長から指示があった。異論はなく、前回議事録が承認された。

1. 本部関係報告

(1) 本部理事会報告

辻理事から資料 No.3 に基づき、2017 年度第 6 回理事会、2018 年度第 1 回理事会議題の審議事項などの報告があった。

- 日本分析化学会の代議員候補者名簿が、1 月号に掲載されるべきところ、2 月号に掲載された。この経緯について説明があった。加えて、「ぶんせき」4 月号にて会長から釈明文が掲載され、法人会員からの推薦のとりまとめが遅れたことが原因であると報告された。4 月 1 日から分析化学会事務局長が、田巻氏から志智氏に代わったことも報告された。
- 2021 年 ICAS が JASIS と合同で幕張にて開催される予定であるため、同年の分析化学討論会を近畿支部に担当してほしいとの要請があった。それに対し、年会開催のノウハウを継続するため、1 年ずらして 2022 年に近畿支部が年会を担当する案を、近畿支部としては申し入れしている。
- 4 月 24 日（火）に、第 7 回定時総会が開催されること、代議員に資料が配布されていることが報告された。
- 本部会計についての説明があった。貸借対照表の内訳表もつけるべきではとの意見に

対して、内閣府への確認を行ったところ、必ずしも必要でないとの回答があった。会費収入 138 万円減と会員の減少に歯止めがかかっていないこと、福島での原発事故に関連する標準物質の頒布が落ち着いたため 354 万の減収したこと、広告収入 316 万円減収に対して特集号への広告、広告を請け負っている明報社の見直し等が検討されていることが報告された。なお、支出に関し、会議費の 537 万円減については、代わりに賃借料として 590 万円増を計上されていることが説明された。

- 支部会員から本部事務局体制および「本部理事会報告」の仕方について、意見が出された。支部長の回答としては、近畿支部としては、今後とも意見を言うべきところは発言し、理事会の審議内容を支部役員に伝えていく。並行して、近畿支部のプレゼンスを如何に高めていくか考えることも大切であるとの趣旨であった（幹事会での本部理事会報告では、まず、業務執行理事に報告を依頼しており、ご都合がつかない場合、支部長（庶務担当理事）が報告するようにしている）。
- 岡田会長直轄の元、ホームページタスクフォースが立ち上がり、学会のホームページの刷新が予定されている。辻支部長まで連絡があれば、4月の理事会で支部会員の意見を反映させることが可能。
- 支部毎の決算報告が公開された。各支部の決算状況については健全な状況にある。

（2）「ぶんせき」誌報告

編集委員の田中氏より、資料 No.4 に基づいた説明があった。現時点で決まっている近畿支部担当分の執筆者について説明があり、まだ未決定分については自薦他薦を問わず受け付けているとのことであった。

（3）「Analytical Sciences」誌報告

編集委員の岡本氏より、資料 No.5 に基づいた説明があった。第1回 Analytical Science 新旧引継編集委員会の議事などの報告があった。受付件数とアクセプト数の推移、Analytical Science 賞について説明があった。

（4）「分析化学」編集委員会報告

編集委員の諏訪氏より、資料 No.6 に基づいた説明があった。担当事務局員の交代と審査システムの変更（査読者と委員の間に事務局を介さない）について説明があった。2018年度の年間特集は「膜」である。

2. 2017年度 支部関係報告

(1)2017年度近畿支部 事業報告

中原庶務幹事より、資料 No.7 に基づき、2017年度の支部事業について報告された。すでに本部に報告済みである内容であるが、異議なく承認された。

(2)2017 年度近畿支部 会計決算報告

牧会計幹事より、資料 No.8 に基づき、2017 年度の支部会計が報告された。すでに本部に報告済みである内容であるが、異議なく承認された。

3. 2018 年度 支部関係 事業計画・予算立案の件

(1)2018 年度近畿支部 事業計画

① 常任幹事会・幹事会スケジュール

中原庶務幹事より、資料 No.9 に基づき、2018 年度の常任・幹事会のスケジュールについて説明があった。

② ぶんせき講習会

川崎実行委員長より、資料 No.10 に基づき、自動返信システムの導入の件、ぶんせきの会告を従来より 1 ヶ月早めていること、受講証明書を名札の裏に記載することについて説明があった（この際に、電子印章を用いる予定である）。

③支部講演会 WG

責任者の村松氏より、資料 No.11 に基づき、本年度は 4 月、7 月、12 月に支部講演会を企画していることが説明された。7 月の第 2 回支部講演会では、村松康司氏（兵庫県立大学工学研究科）と渡邊緩子氏（日鉄住金テクノロジー(株)尼崎事業所文化財調査室）の講演が予定されている。

④提案公募セミナーWG

責任者の高山氏より、資料 No.12 に基づき、2017 年 1 月付の規約改正（申し込み期限が 4 ヶ月前から 2 ヶ月前に変更になった）の効果と、2018 年度第一回提案公募型セミナー(4/24)について説明があった。

⑤ホームページ&分近ニュース WG

責任者の永井氏より、資料 No.13 に基づき説明があった。ぶんきんニュース 43 号の発行と、近畿分析技術懇話会の法人会員はぶんきんニュースに無料でバナー広告を掲載できることの周知について説明があった。

⑥若手セミナーWG

責任者の西氏より、資料 No.14 に基づき説明があった。平成 30 年 8/30(木)-31(金)に福井市すかつとランド九頭竜で第 12 回平成夏季セミナーを中部支部と合同で開催予定である。また、企業に新製品紹介講演（25 分）や広告を勧誘していただくよう要請があった（縮

め切り 5 月 3 1 日)。現在、京都電子工業から広告を出していただけることになっている。参加登録と会計処理、講演要旨の収集は近畿支部で行い、会場準備、講演要旨製本、企業広告の取りまとめは中部支部で行うことが確認された。会計処理は近畿合同事務局に依頼することになるが、中部支部でも口座は開設されるのではないかとの見通しである。最終的な会計収支は 2 支部で半々とする。本部への報告は近畿支部から一元化することになる見込みである（以上の点は中部支部にも確認しておく必要がある）。

⑦近畿支部 65 周年記念事業

責任者の前田実行委員長より、資料 No.15 に基づき、65 周年記念事業の開催意義、プログラムおよび準備状況について説明があった。近畿支部 65 周年記念事業は、通常の学会ではなく、これまでの支部活動に貢献のあった方に感謝の意を表する趣旨があるので、会費は徴収せず、支部内の剰余金を原資として支部会員に還元することで企画することが報告された。主として、予算は印刷費として使われる予定である。

(2)2018 年度近畿支部 予算案

牧会計幹事より、資料 No.16 に基づき、本年度予算案の説明がなされ、異議なく承認された。

4. 2018 年度 支部役員選考委員の選出

辻支部長より、資料 No.17 に基づき、2018 年度の役員選考委員候補者の紹介があり、以下の委員を承認した。また、この 8 名を本部役員選考委員候補者として推薦することが承認された。

(敬称略)

理：大塚 利行（留任）、塚原 聡（新任）

工：久本 秀明（新任）、山本 雅博（新任）

農：白井 理（留任）

医薬：鈴木 茂生（新任）

業界：高原 晃里（留任）、西埜 誠（新任）

5. 近畿分析技術研究懇話会

会長の中山氏より、No.18 に基づき、2017 年度の事業報告と 2018 年度の事業計画について説明があった。2017 年度の近分懇奨励賞は、4 件応募があり、その中の 2 件が選ばれたことが報告された。

6. 協賛事業

辻支部長より、No.19に基づき、以下の行事について協賛の依頼があったことが報告され、承認された。

- ・第23講「研究開発リーダー実務講座2018」＜主催：近畿化学協会＞

7. その他

辻支部長より、電子印章の運用について説明があった。支部長の承認があることを条件にぶんせき講習会や若手セミナーでの賞状などで電子印章を利用できるようにする。また、有功賞について現在リガクより1件の申請が準備中であるとの報告があった。

以 上